

令和3年度（補正予算）

関係人口創出・拡大のための対流促進事業 （中間支援組織の提案型モデル事業）

事業の実施結果 （概要）

団体名	株式会社日添
事業名	#旅するジモト

- 好きな地域（6地域）において自身でプロジェクトを立ち上げそこに参画することができる、「#旅するジモト」について、NFTを活用した「ジモトパスポート」で地域との信頼関係を可視化した上で、関心のある人を募集し、会員（NFT購入者）が運営に関わる関係性を構築した。
- プロジェクトを立ち上げ実行するだけでなく、会員が好きな地域と好きな関わり方を選べる、選択制DAO型のコミュニティを立ち上げ、交流とプロジェクトの立ち上げを実現した。

主な活動内容

1. #旅するジモト 企画

- #旅するジモト の運営に関心がある人材を募り、5名のメンバーと共に #旅するジモト の企画会議を実施した。
- 企画・創業に長けた方、広報に長けた方、ライティングに長けた方、NFT界隈に知識がある方などを中心に募集し、実行に向けて議論と実証実験を重ねた。
- NFTという未成熟の業界の技術を用いて、NFT初心者でも加入しやすいコミュニティを目指したため、議論と実験、NFT発行・管理のシステム構築を共に行う会社の選定に時間を要したが、形を作り上げることができた。
- #旅するジモト やNFTに関心のある人々が集うための広報手段として、Twitterスペースを毎週金曜日に実施した。

2. #旅するジモト の運営開始

- #旅するジモト のローンチとして、2月28日にNFT（約20,000円）の販売を開始した。（対象：石川県七尾市、三重県尾鷲市、鳥取県、山口県周防大島町、高知県四万十町、熊本県五木村）
- 入会し、地域の世話人とコミュニケーションをとりながら、自身が好きなプロジェクトを組成し、コミュニティ内で予算を要求、投票によってプロジェクトの実行不実行を決める仕組みとした。
- 地域には関わりたいが、時間・予算に制限がある方のため、投票だけ、見るだけ、という関わり方もできるようにした。これにより、今は濃く関われなくても、少しだけ関わっている状況を保っていただけるようにした。

主な成果

1. #旅するジモト の開始

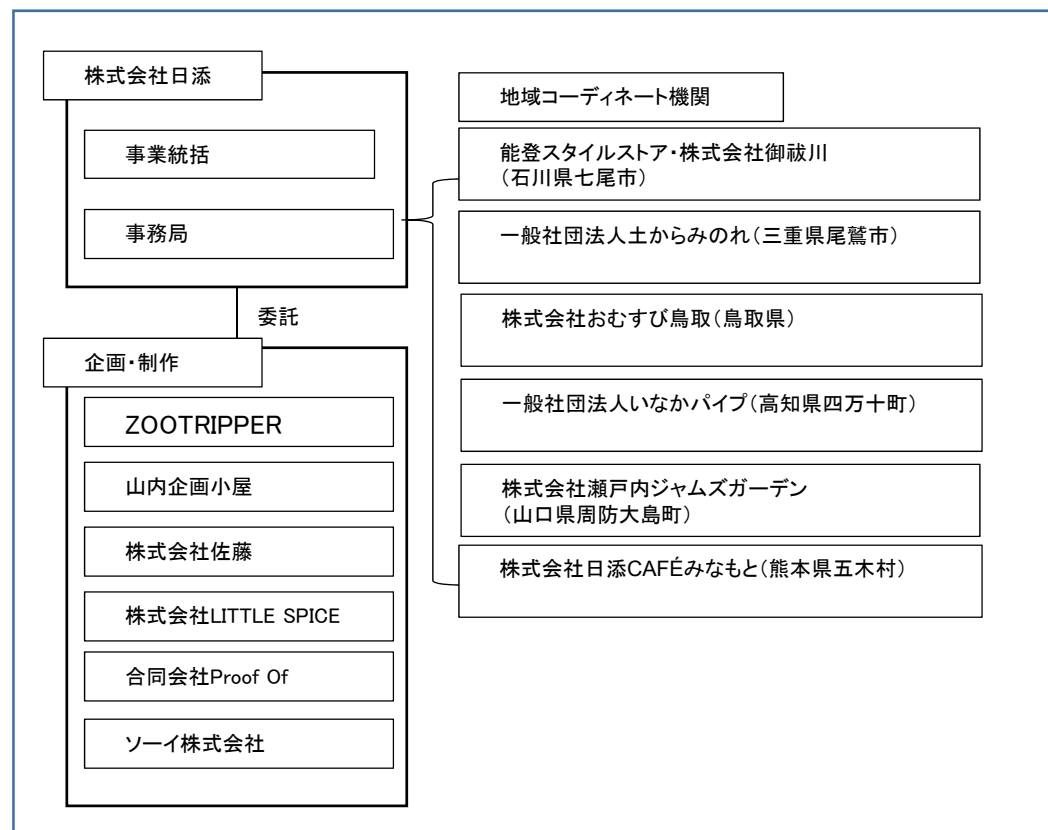
- 3月3日時点で、仮会員登録は13名、Discord入会者は15名、Twitterフォロワーは900名となった。
- 購入者からは、「酒のプロジェクトを立ち上げたい」「稲刈りの手伝いをしたい」などの具体的な声が上がっている。

2. 事業を通じて得られた気づきや知見

- 自分が関わりたい関わり方ができるという方針にしたため、Twitterのフォロワー数からみても、関心を持っている層は多いと考えられる。
- 一方、その会費として20,000円程度支払うということに対してのハードルを感じている対象者が多いようにも感じる。



事業実施体制・関係機関



団体名	役割
株式会社日添	本企画の立案／事務局／広報／顧客とのコミュニケーション／予算・会計管理
能登スタイルストア・株式会社御祓川 (石川県七尾市)	本企画実施のための議論に参画／#旅するジモト会員が享受するサービスの設計・コーディネート・マッチング等
一般社団法人土からみのれ (三重県尾鷲市)	〃
一般社団法人いなかパイプ (高知県四万十町)	〃
株式会社瀬戸内ジャムズガーデン (山口県周防大島町)	〃
株式会社おむすび鳥取 (鳥取県)	〃
CAFÉみなもと (熊本県五木村)	〃

デジタル分野に関する取組状況

- NFTを活用することにより、ブロックチェーン技術で関係人口のコミュニティへの参画度・貢献度が可視化される（削除、上書き、虚偽ができない）状況を作り出すことができた。
- DAO型の組織を目指すため、Discordやオンラインツールを使ったコミュニケーションに特化した。

次年度以降の事業展開

1. 今後の事業展開

- 次年度（2023年3月以降）は、さらに会員を増やすべく、NFTの販売を続けていく
 - 仮想通貨決済販売 3月上旬
 - 日本円決済販売 3月下旬
- NFTの会員が集まったら、6地域合同イベントの実施を予定している。
- その後、5月～7月に向けて、各地域との交流をオフライン・オンラインともに深めていき、プロジェクトの立案、投票、実行に段階を移していく予定である。
- 2023年6月以降に、第2弾のNFT販売も検討している。
- ゆくゆくは連携地域を増やすことを目指す。
- また、メタバース技術と融合させて、どこにいてもリアルに地域を感じられる会員限定のコミュニティを目指していきたいと考えている。

2. 収支計画

- 収入予定
 - 会費 20,000円×200名 = 4,000,000
- 支出予定
 - 事務局運営費 2,000,000
 - 地域プロジェクト費 2,000,000

3. 次年度以降の事業スケジュール

- 3月上旬 仮想通貨決済でのNFT販売
- 3月下旬 日本円決済でのNFT販売
- 4月 6地域合同イベント
- 5月以降 第2期販売開始
- 5月～7月 プロジェクト組成期間
- 8月 プロジェクト組成のための投票
- 9月 プロジェクト実行期間



自立・自走化にあたっての課題

- 前述のとおり、「自分が関わりたい関わり方で関わられる」という理念にたくさんの方から共感をいただき、反響も大きかった一方、関わりの条件となる会員になるために、20,000円の支出を要することがハードルになっていると考える。
- 「お金を払ってでも関わりたい」という人がいることは確実なので、如何にしてそこへアプローチできるかが鍵となる。